



三気の門

PORTAL SANKI

NO.19

2026.10.1

文責：佐藤正一

保見中ブランドを目指して、授業研究会開催！

～だれもが学力を高めるUDの授業を目指して～

保見中学校には毎月のように日本全国から視察があります。9月だけでも、大学の研究グループ、香川県や神戸市の学校、海外からも視察がありました。

保見中学校は、多文化共生教育、国際理解教育、UD（ユニバーサルデザイン）授業で有名な学校なのです。先日、ヤフーニュースにプレジデントオンラインで掲載された衣台高校と保見中学校の記事が紹介されていました。

そんな保見中ですが、さらなる授業力の向上を目指して、9月28日（月）に授業研究会を行いました。大阪大学大学院の櫻井先生を講師にお迎えし、3年生の森川先生が社会科の授業を公開。2年生の杉本先生が総合的な学習で読書プログラムの授業を公開しました。

森川先生の授業は、日本国憲法で習得した基本的な人権の知識を使って、生徒同士で話し合う授業。「見方」「考え方」の力を伸ばす授業でした。社会の授業というと、先生が講義し、生徒はひたすら「暗記」などという古臭いイメージがありますが、森川先生の授業は180度違います。次期学習指導要領（国が示す10年先を見越した教育方針）は、子供の主体的、対話的で深い学びをさらに進めることを打ち出しています。森川先生の授業はそれを形にした授業でした。杉本先生の読書プ

ログラムの授業は、本校の売りの一つです。ただ読むだけでなく、読んだ後に対話やあらすじ、要約する活動を組み合わせて行う授業です。これを行うことで、生徒は本の読み方を身に付け、あらゆる機会に本を読む力を付けるのです。

『家に読める本があればあるほど、その家の子供の学力は高い』というのは、全国学力テストの分析からも分かっています。多読を進める保見中の取組は、確かな学力向上につながっています。

